



岡山トヨタ自動車株式会社

岡山県内 移動課題解決の取り組み

2025

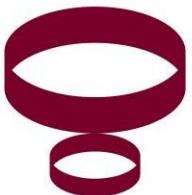
あなたと、わたしで。



OKAYAMA TOYOTA



あなたと、わたしで。



OKAYAMA TOYOTA

岡山トヨタ自動車株式会社
代表取締役社長 梶谷 俊介

経営理念

カーライフに「喜び・感動」を共創する

お客様の喜び・感動を創造します

社員の喜び・感動を創造します

地域社会に喜び・感動を創造します

岡山トヨタ ビジョン2030

岡山トヨタは、

もっと笑顔あふれる未来のために、

共創の環をつなげていきます。

岡山トヨタの取り組み

■2022年 秋 福祉Moverの実証実験

- ・トヨタ・モビリティ基金様の紹介を通して、ソーシャルアクション機構と新しい取り組みの検討を開始
- ・アール・ケア様との実証実験を通して、モデル・ノウハウを習得

■2022年 冬 基礎自治体の取り組み

- ・モビリティに関する協議会に参画し、地域の課題・実態把握とサステナブルな取り組みとしての福祉Moverを提案

■2023年度 トライアルから本格展開へ

- ・大型介護施設への営業活動、医療法人様へ、福祉Moverをご導入いただく
- ・県内自治体へ訪問、各地域の課題を把握、新しい取り組みを順次ご提案

■2024年度

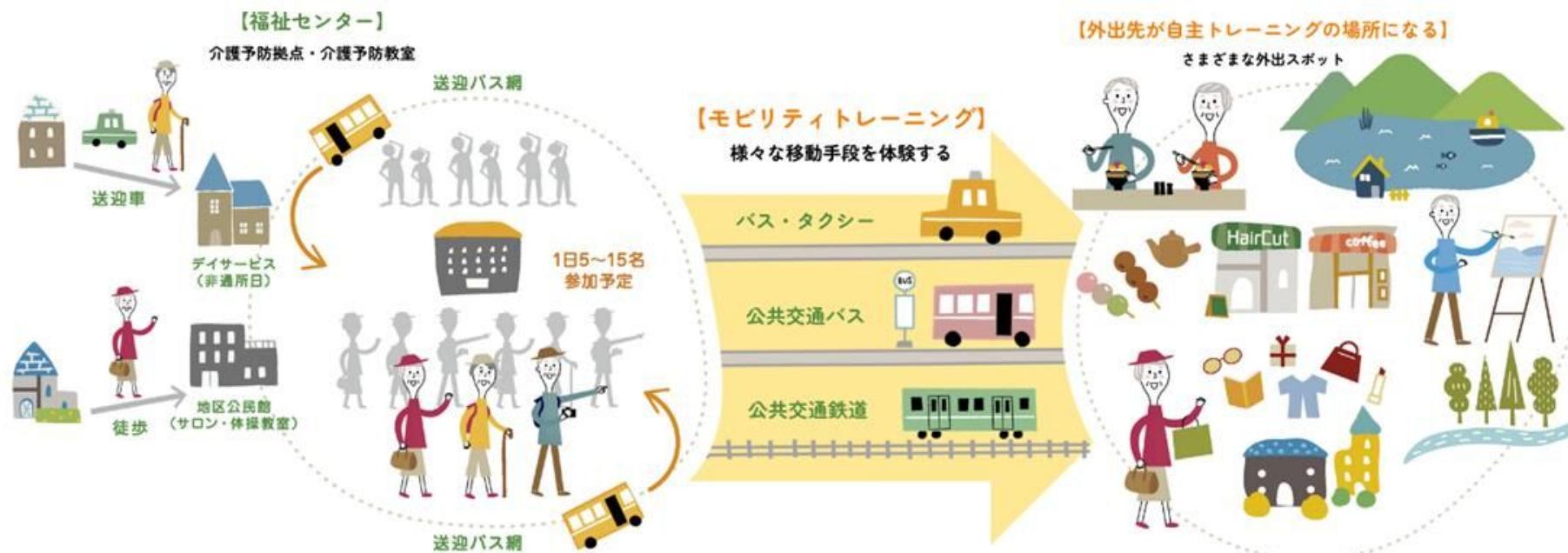
- ・アール・ケア様と岡山トヨタグループで行う共創事業、合弁会社設立を目指し協議開始
- ・大型介護施設への営業活動、社会医療法人様（2法人）へ、福祉Moverをご導入いただく
- ・「交通空白」解消・官民連携プラットフォーム全国キャラバン（全国5か所で開催）岡山会場で登壇、移動課題の解決について講演
- ・「交通空白」解消・官民連携プラットフォーム会員応募、入会

■2025年度

- ・アール・ケア様と福祉モビリティを通じて地域社会の課題解決を実現する会社、TRモビリティ設立
- ・真庭市様のフィールドをお借りして行う「共創による北房地域オンデマンド交通構築・実証運行事業」を準備中
- ・みんなの集落研究所様と「人口減少社会における地域課題解決のための包括連携に関する協定」を締結
- ・「新見版MaaSの推進に向けたプロジェクトチーム（NiMP）の包括的連携に関する協定」を締結
- ・新見版Goトレのプログラム開発・実証実験、福祉×交通・移動支援のハイブリッド人材育成・開発、次世代モビリティの導入実験（長期的）を予定

Goトレとは

「地域のありとあらゆるもの」と 「デジタル」を活用してつくる 地域丸ごとディイサービス化

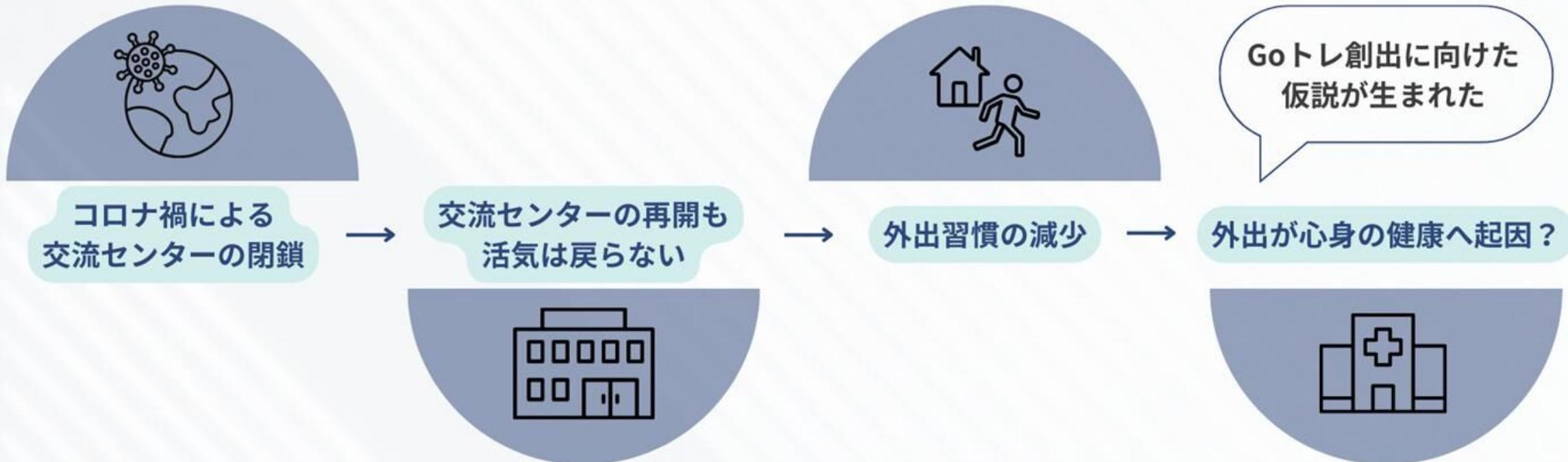


Goトレ 3つのポイント

- ①すでに地域にあるものを活かす 地域資源の活用
- ②自助・互助・共助・公助・民間の力を活かす 共創
- ③ハイブリットに課題解決を図る 三方良し

なぜGoトレを考えたのか①

外出することが心身の健康につながるという仮説



なぜGoトレを考えたのか②

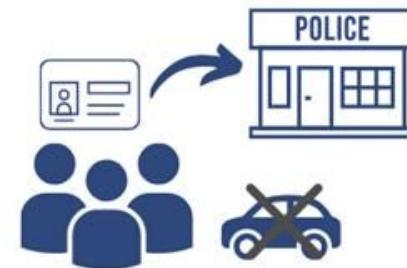
公共交通機関の課題解決したいという想い



課題①：交通機関の縮小



課題②：増えない利用者



無くなると困るのは住民、でも乗らない現状

地域丸ごとデイサービス化のGoトレとは

地域丸ごとデイサービス化による「移動」を中心とした
高齢者的心身共に健康な状態を目指す介護予防・外出自主トレーニングです

Goトレで実現すること

01. 移動

歩く
乗る

02. コト

話す
乗り物に乗る
買い物をする
体験する

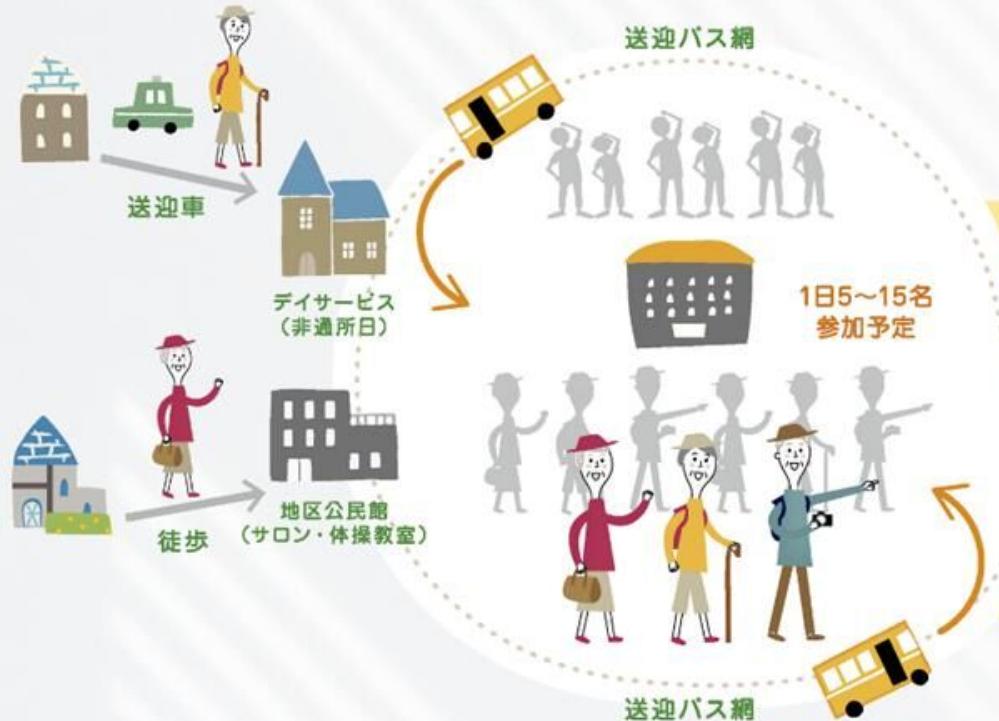
03. 価値

健康
コミュニティ醸成
社会への順応
経済の活性化

サービスの全体像

【福祉センター】

介護予防拠点・介護予防教室



自助 / 互助

自分/友達の力

公助

集まる場所

共助

公助

民間：移動手段

公助

民間：トレーニング場所

Go トレ 介護保険 介護予防財源

Goトレのメインターゲット

2030年問題に向けて、
団塊の世代の元気な人を元気なままでいられるようにGoトレを提供していく

2025年

団塊の世代が
75歳以上に

約5.6人に1人が
後期高齢者



2030年

3人に1人が
高齢者へ

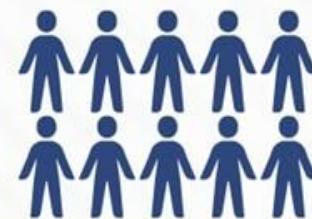
約3.1人に1人が
高齢者



医療費や介護サービスの需要が急増し、
生産年齢人口の減少によって
医療介護職の供給不足が見込まれる

元気な人が元気なままでいることで・・

100人



1人



Goトレプログラムに
かかる年間経費

要介護5の場合の
介護保険サービス年間利用料

介護にかかる財源やリソースなどを
大幅に削減できる先行投資となる

なぜ外出することが大事なのか

高齢者が外出することは、身体的、精神的、社会的な健康に多大な効果をもたらし
結果として介護予防につながる

身体的健康の向上



身体活動を促進し筋力や
バランス感覚を維持・向上
させます。

これにより転倒リスクが
減少し、日常生活の自立度
が高まります。

精神的健康の改善



気分転換やストレス解消
に役立ち、うつ病や認知症
の予防にも効果的です。

自然環境や新しい刺激を
受けることで、脳の活性化
が促されます。

社会的交流の促進



他者との交流を増や
し、社会的なつながりを
強化します。

これにより社会的孤立
が防止され、心の健康が
保たれます。



Goトレによる外出トレーニングにより、
日常的に外出の機会が増え、健康で自立した生活を送るカギとなる

Goトレアアプリによる外出データの取得、送迎のデジタル化

利用者管理・運行管理・効果測定を一体化したアプリを開発中



アップルウォッチ (iOSに対応)



- ・安全管理
(SOS発信、位置情報、アラート)
- ・運動データ管理
(歩数、パルス、カロリー)



- ・利用者管理
- ・運行管理
- ・送迎シフト
- ・運行記録
- ・利用者データ

Goトレが生み出す価値とは

複数の課題をハイブリッドに解決

介護課題

2025年

団塊の世代が
75歳以上に
約5.6人に1人が
後期高齢者

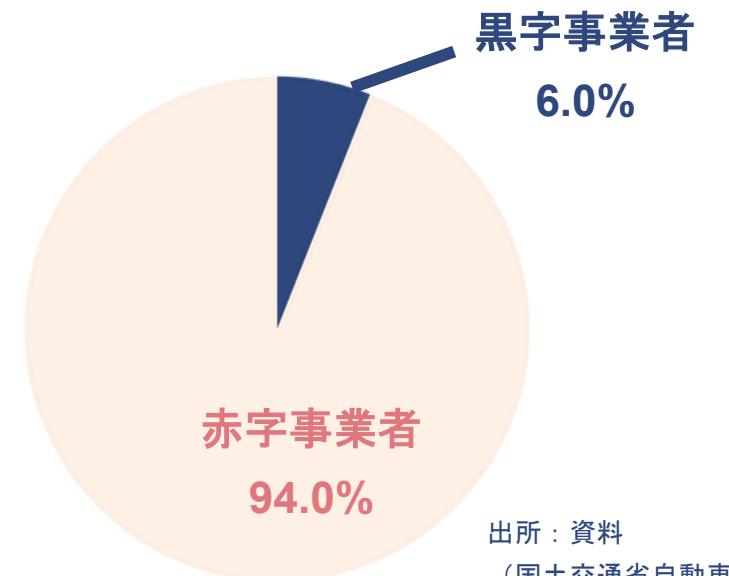


2030年

3人に1人が
高齢者へ
約3.1人に1人が
高齢者



交通課題



出所：資料
(国土交通省自動車局)

元気な人たちを元気なままに

公共交通を健康のために使う

まとめ

Goトレとは

「地域のありとあらゆるもの」と
「デジタル」を活用してつくる
地域丸ごとデイサービス化

Goトレで実現すること

01. 移動

歩く
乗る

02. コト

話す
乗り物に乗る
買い物をする
体験する

03. 価値

健康
コミュニティ醸成
社会への順応
経済の活性化

Goトレの効果

01. インフラの維持



02. 介護予防



03. 経済活性化



課題を同時に解決

福祉×交通×まちづくり 玉野市における「Goトレ実証運行事業」

共創プラットフォーム名称	玉野市リ・デザイン連携会議
共創プラットフォームの活動目的・内容	<p>健康寿命の延伸を目的に介護予防・外出自主トレーニングプログラムGoトレを実施する。</p> <p>既存インフラの維持、介護予防、経済活性化等、複数の価値を生み出し、玉野市にある地域産業や、観光スポット、多様なリソースの活性化、高齢者の健康増進及び公共交通の維持拡大に貢献することを目的とする。</p>
各施策と連携イメージ	<p>実証実験の環境整備 地域への周知・PR 地域振興</p> <p>玉野市</p> <p>玉野市社会福祉協議会</p> <p>岡山トヨタ</p> <p>旭自動車</p> <p>アール・ケア</p> <p>高齢者への周知 福祉分野の情報提供 地域住民橋渡し</p> <p>事務局 全体管理 事業運営 プロジェクトの企画 効果検証</p> <p>車両・運転手確保 参加者の送迎</p> <p>Goトレプログラムのコーディネート Goトレリーダー 参加者募集</p>

福祉×交通×まちづくり 玉野市における「Goトレ実証運行事業」

		内容
実証事業の概要		介護予防・外出自主トレーニングプログラムGoトレを導入し介護・福祉事業者の参画を促す。玉野市にある地域産業や観光スポット等、多様なリソースと福祉施設とのルートの開発と各スポットでの人材確保と役割分担。プラットフォーム(運行主体)と運行頻度を決めて、ルートの検証・運行時刻・高齢者の乗車人数を決めて実証実験を行う。Goトレではウェアラブル(アップルウォッチを全員装着)で歩数・パルス・カロリー等の健康・運動データ、位置情報・SOS発信等の安全管理データの収集ができ、デジタル化の効果検証を行う。これにより本事業の効果検証として、高齢者の行動変化(長期的には健康寿命の延伸)、地域の経済効果、既存交通網への利用促進の実証実験を行う。
役割	玉野市	外出スポット掘り起こし、開発、磨き 次年度予算化に向けた検討
	玉野市社会福祉協議会	高齢者一人ひとりの特性に合わせた対応支援 サロン、体操教室との連携・調整
	旭自動車	福祉事業者と連携した運行主体 地域交通事業者と連携・協力
	アール・ケア	Goトレリーダー1名 Goトレ月2回、2か月半コースで計5回と測定2回を1セット×2期
	岡山トヨタ	Goトレ実施主体として、事務局機能を担う 共創プラットフォームに参画する各主体のマネジメント及び行政、住民、交通事業者との連携調整
実証事業により見込まれる効果		既存公共交通の理解を深める効果。観光スポット・商業施設の経済効果。利用者・交通事業者・行政等、多様な主体の連携・協働による相乗効果。日中の安定した収入。



「たまのGoトレ」第Ⅰ期実証開始

当日のスケジュール

- 11:00 オリエンテーション(流れのご説明・受付・体調確認・アンケート・準備)
- 11:30 モビリティトレーニング(ジャンボタクシーで移動)
- 11:45 昼食(権太茶屋)
- 13:00 自主トレーニング(イギリス庭園散策・公園散歩等)
- 13:45 モビリティトレーニング(ジャンボタクシーで移動)
- 14:00 終了予定(アール・ケア デイサービスセンター アルフィック)



オリエンテーションで体調確認、アルファブル端末装着のお手伝い



握り・天ぷら・手巻き等を堪能。特に天ぷらが上手との評価



アル・ケアの専門職員様が見守る体力測定!!アルフィック



散策中、久しぶりで懐かしいとの声!!深山イギリス庭園



会話をしつつ、楽しそうに食事を選ぶ参加者!!権太茶屋



7名全員で移動。タクシーは「最高」との感想!!旭自動車様ご協力

満足度も高く笑顔で楽しむ参加者

9月16日、アール・ケア デイサービスセンター アルフィックでオリエンテーション及び体力測定を行い、参加者7名が安心して取り組めるスタートとなった。食事を残さず楽しんだり、仲間と会話を弾ませたり、声をかけられて一緒に行動するなど、とても和やかな雰囲気。普段は外出の機会が少なく、「買い物は娘やお嫁さんに連れて行ってもらっている」という参加者も、今回は久しぶりの外出に終始ご機嫌。ジャンボタクシーでの快適な移動も満足いただいた。本取組を通じて、外出のきっかけや地域での交流が広がり、楽しみや健康づくり、介護予防にもつながるのではないかと実感。Goトレではウエアラブル(アップルウォッチを全員装着)で歩数・パルス・カロリー等の健康・運動データ、位置情報・SOS発信等の安全管理データの収集ができ、デジタル化の効果検証も行う。次回は9月30日、フィールドは「SCメルカ」。



「たまのGoトレ」第2期第2回実施

⌚ 当日のスケジュール

- 11:00 オリエンテーション(受付・体調確認・アンケート)
@田井地区社会福祉協議会 居場所 ぬくもり
- 11:15 モビリティトレーニング(ジャンボタクシーで移動)
- 11:30 自主トレーニング(ショッピングモール メルカ)
- 13:30 モビリティトレーニング(ジャンボタクシーで移動)
- 14:00 終了(体調確認・アンケート)
@田井地区社会福祉協議会 居場所 ぬくもり

Goトレ ショッピングモールメルカ 散策

11月4日(火)、田井地区社会福祉協議会の協力で開かれる第2期としては2回目となる「たまのGoトレ」を実施した。田井地区社会福祉協議会の居場所「ぬくもり」に集合後、旭自動車様の協力のもと、ジャンボタクシーでショッピングモール「メルカ」に移動。参加者の皆さまと一緒に食事をした後、それぞれ思い思いに買い物を楽しまれた。

本取り組みを通じて、1年中館内が適温に保たれ、様々な施設が集まっているショッピングモールは、Goトレの場所としては非常に最適であると感じた。Goトレの目的の一つである「地域でお金を使う」という観点でも、効果が期待出来る。運営面の課題としては、図書館も併設されている施設であるにも関わらず休館日であり、活動の選択肢を狭めてしまったことが挙げられる。来年度以降は、事前の計画の段階で、訪問地域の各施設の休館情報を調べておく必要がある。

※月曜日が祝休日と重なったときは開館し、直後の祝休日以外の日に休館

次回は、11月18日、訪問先は「渋川」。JR宇野線を利用予定。(田井駅 ⇄ 宇野駅)



▲ウェアラブル端末装着と事前アンケートを実施



◀▲昼食はMYER'S MARKETにて、参加者自ら事前予約して一緒に食事
豊富なメニューから思い思いに好きなものを



▼偶然開催されていた九州物産展でお買い物



▲重くなった買い物袋を持って旭自動車のジャンボタクシーでメルカから移動

国土交通省 共創モデル実証運行事業

「交通空白」解消等リ・デザイン全面展開プロジェクト（令和7年度） 共創モデル実証運行事業/モビリティ人材育成事業

交通を地域のくらしと一緒に捉え、地域の多様な関係者の「共創」（連携・協働）※によりその維持・活性化に取り組む
実証事業、人材育成を支援します！ ※「共創」官民共創・交通事業者間共創・他分野共創（交通と他分野の垣根を越えた連携）

1. 共創モデル実証運行事業

補助対象事業者

交通事業者等※を含む複数主体で構成される協議会や連携スキーム等（共創プラットフォーム）

※交通事業者等・一般乗合・一般乗用旅客自動車運送事業者、鉄道事業者、一般旅客定期航路事業者、公共交通シェアの実施主体 シアサイル等の事業実施主体、道路運送上の許可登録を要しない輸送サービスの実施主体等

（注）単一の事業者のみでは補助対象となりません。

補助対象経費

新たな事業の立ち上げ及び実証運行に係る以下の経費に対して支援を実施

- ①基礎データ収集・分析、協議会開催に要する経費（有識者謝金・会場使用料等）
- ②システム構築（配車・運行管理・AIオペレーション等）、実証運行に使用する車両導入（車両の購入・リース等）による取得・改造に要する経費
- ③実証事業に要する経費（新規運行に係る経費、実証環境の整備等）

補助④

A 中小都市、過疎地など (人口10万人未満の自治体)	B 地方中心都市など (人口10万人以上の自治体)	C 大都市など (東京23区・三大都市圏の政令指定都市)
500万円以下は定額、 500万円超部分は2/3	補助率2/3	補助率1/3



▲他分野共創の分類例



【事業例】※R5年度:77事業、R6年度:256事業を支援

- スクールバス介護輸送・商業施設送迎等の地域輸送資源の混乗化、遊休時間帯における地域路線への活用
- 介護予防プログラムの一環として公共交通を利用した外出を促進（介護予防財源の活用）
- 教育委員会との連絡による児童の登下校・部活動送迎やあわせマート交通等の実証運行
- 商工会議所・商工会や社会福祉協議会・観光協会・地域金融機関・農協等の地域経済界による取組 等

2. モビリティ人材育成事業

（定額：上限3,000万円）

補助対象事業者

地域における交通やまちづくりに取り組む人材の育成を行なう都道府県、市町村・民間事業者等

補助対象経費

地域交通分野におけるモビリティ人材の育成に関する取組実施経費

（注）市町村域を超えた広域的な取組に限ります。

問合せ先

令和7年度「交通空白」解消等リ・デザイン全面展開プロジェクト事務局
メールアドレス：contact@kotsu-kuhaku.jp
コードセンター：0570-000984

公募期間

令和7年3月10日（月）～4月7日（月）
【採択時期目安：令和7年5月上旬（予定）】

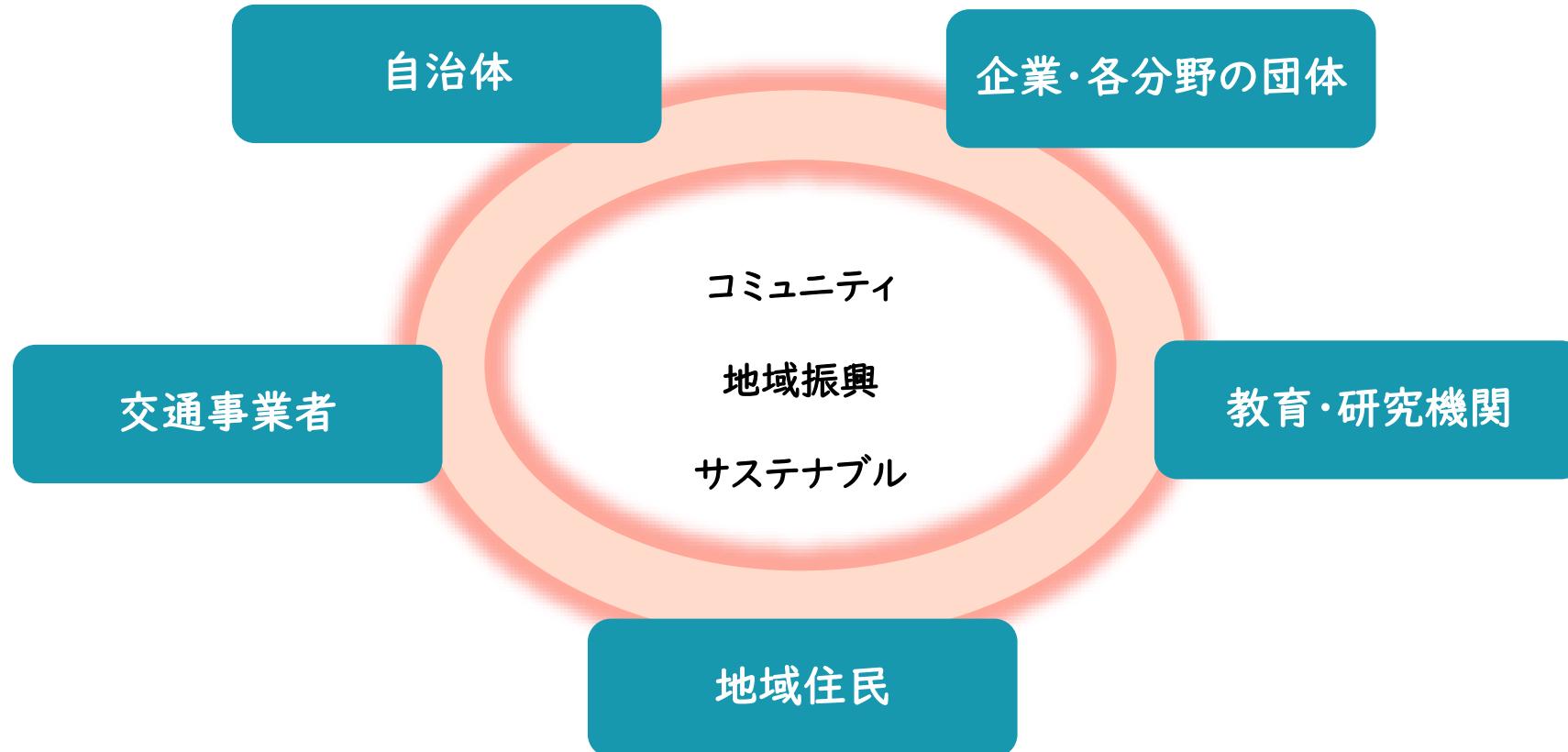
※応募にあたっては、自治体又は運輸局の推薦を受けることが要件となります。
※自治体については、「交通空白」解消・官民連携プラットフォームに加入していることが要件となります。

出典：国土交通省「交通空白」解消等リ・デザイン全面展開プロジェクト
<https://kotsu-kuhaku.jp/kyousou/>

事業実施地域	事業実施主体	事業名
広島県江田島市	江田島市公共交通共創プラットフォーム	江田島市 フェリー×スマートモビリティ×観光周遊実証事業 ～移動体験を通じた交流人口拡大と地域活性化モデルの構築～
広島県庄原市	庄原 MaaS 検討協議会・共創プロジェクトプラットフォーム	先進過疎地庄原版オールタイムデマンドプロジェクト
広島県広島市	五日市南地区移動改善プラットフォーム	AI オンデマンド交通と定時定路線バスのハイブリッドによる移動改善実証事業
広島県広島市	一般社団法人バス協調・共創プラットフォームひろしま	共創による乗合バス事業の再構築に向けた取組
広島県福山市	福山・笠岡地域公共交通活性化協議会 バス共創プラットフォーム	持続可能なバス路線の再構築に向けた実証事業
広島県福山市、尾道市	広島空港地域共創型乗合タクシー実証運行プラットフォーム	地域共創型広島空港アクセス強化事業 ～サイクリングを軸とした福山・尾道エリア観光消費拡大～
岡山県玉野市	玉野市リ・デザイン連携会議	福祉×交通×まちづくり 玉野市における「Goトレ実証運行事業」
岡山県玉野市	福祉×交通×まちづくり「TAMANO モビリティ」展開実証事業	福祉×交通×まちづくり「TAMANO モビリティ」の展開実証事業
山口県下関市	下関市産・官・学連携共創プラットフォーム	貨客混載 AI オンデマンド交通事業
山口県周防大島町	周防大島公共交通共創推進プラットフォーム	周防大島町（東和地区白木半島エリア）における交通体系のリ・デザイン実証プロジェクト
山口県田布施町	田布施町地域公共交通共創プラットフォーム	健康に安心して住み続けられる田布施町の環境づくり (交通×福祉×子育て×教育×商業)
山口県長門市	長門市共創プラットフォーム	AI オンデマンド交通導入による地域全体のデジタル活用と活性化
山口県山口市	やまぐち TAXI アプリ共創プラットフォーム	地域共同配車アプリ～やまぐち TAXI アプリ～

出典：国土交通省～令和7年度「『交通空白』解消等リ・デザイン全面展開プロジェクト」
（「共創モデル実証運行事業・モビリティ人材育成事業」）の事業採択について～
https://www.mlit.go.jp/report/press/sogo12_hh_000439.html

みんなお互いの立場を理解して、持ち味を生かした連携・協働



上記の中に熱意・実行力のあるメンバーが
いることでプロジェクトが進む



キーワードは 「共に」



ご清聴ありがとうございました

